

夢を目指す皆さんへ贈るメッセージ



堀江 隆志

マイナスイメージのニュースも聞こえてくる柔整・鍼灸の業界ですが、治療院や施術者の考え方や日々の取り組みによって、多くの患者様に喜ばれ、地域社会に貢献しているのも事実です。

“患者様一人ひとりに、より良い施術”を提供できるのも、施術者である柔整師・鍼灸師。われわれの提供する、“よりよい施術”で信頼を築きたい、と考えています。

さらに、プロも多く輩出する関東の社会人野球チームのキャンプにも帯同するなど、野球選手のトレーナーとして貴重な経験を積み重ねてきました。かつて、遠方から何度も堀江さんの施術を受けて通ってくれた球児が、のちに、晴れて甲子園出場を果たすなど、施術者冥利に尽きる嬉しいエピソードも数多い堀江さん。野球以外にも、国体広島県スキー・クロスカントリナーチームの帯同など、豊富なトレーナー経験が、のちの開業を大きく支える柱となります。



患者様の信頼を大切にしながら施術を続けることで、多くのアスリートがよりよいパフォーマンスをあげられるようになり、柔整や鍼灸の価値も実感してもらいたいと、堀江さんは語ります。



ほりえ はり灸接骨院 院長
3 堀江 隆志 さん

■柔整学科 2006年卒業 3期生
■鍼灸学科 2009年卒業 6期生

一人ひとり、
人とのつながりを大切に。

一人ひとりの個性をいかしつつ、負担のかかりにくい身体の使い方を指導し、“よりよい施術”で信頼を築く。

小学校時代から野球少年だった堀江さん。中学、高校時代も続いて野球に打ち込む日々でした。高校卒業後は医療系の仕事を希望し、保健福祉大学の放射線学科に進学します。しかし、まるで工学部に進学したかのような授業内容に、「これは違う」と感じた堀江さん。早々に大学を退学し、医療系の仕事をするなら、一人ひとり、人と関われる仕事があった。柔道整復師をめざして、高校卒業の翌年、IGLに入學しました。解剖学や生理学など、難易度の高い科目も大学である程度学んでおり、学業はスムーズにスタート。授業をしっかりと聞いて日々復習をしながら、着実に学んでいきました。

IGL入学後、野球部があると知った堀江さんは喜んで入部しますが、実質活動していない部とわかり、公式戦にも出場できないよう学校と交渉、野球部を再生させます。IGLで仲間と一緒にプレーしたことは、青春の大切な思い出。当時のチームメイトとは、今でも学年を超えたつながりが続いていて、定期的に集まる良き仲間です。
いずれば開業、と決めていた堀江さん。一人ひとり、人とのつながりを大切に治療するならば、柔整に加えて、鍼灸の資格も取得することで、一人ひとりの症状に合わせた治療の幅が広がる。そう考えて、柔整学科卒業後、続いて鍼灸学科に入學します。

鍼灸学科卒業後は、在学中からアルバイトを続けていた整形外科に勤務。長年の野球経験を活かし、広島大学の強豪高校野球部のトレーナーを担当し、その間、甲子園に7度も帯同。